

ニセコ町観光振興ビジョン 【概要版】

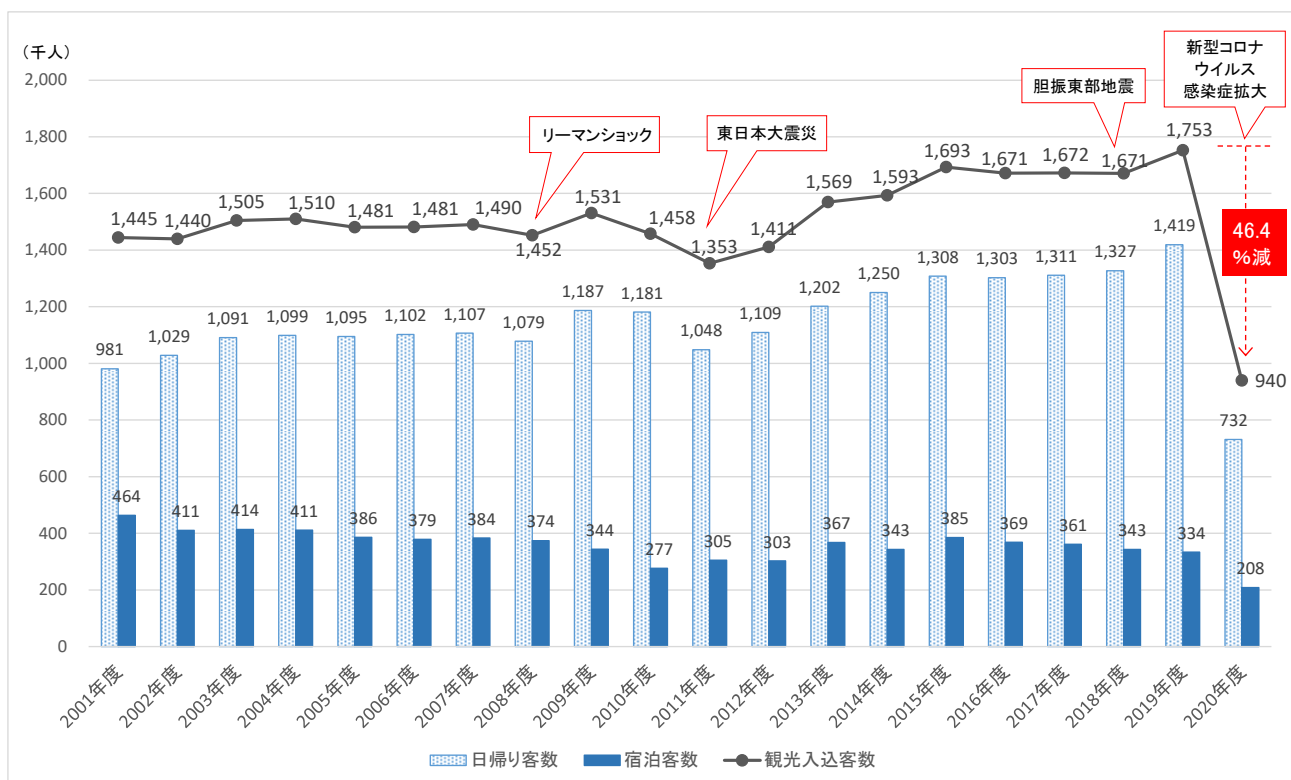
1. 背景と目的

前回の「ニセコ町観光振興計画」の策定から10年以上が経過し、観光を取り巻く状況は大きく変化しています。国が積極的なインバウンド政策を進める中で、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行（2020年1月～現在）は、地域経済に深刻なダメージを与えています。観光リスクマネジメントの重要性が再認識されただけでなく、観光の在り方そのものが、大きな転換期を迎えています。

本ビジョンは、新たなスタンダードとなる持続可能な観光の国際基準「GSTC-D（Global Sustainable Tourism Criteria for Destinations）」、及び観光庁「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」を踏まえた計画とするとともに、町民や町内事業者、観光協会、役場等が共有の認識を持ち、今後の目指すべき将来像など、次世代を見据えた観光地域づくりの方向性を示す計画です。（計画期間：2019年度～2028年度）

2. ニセコ町観光入込客の推移

2019年度の観光入込客数は175.3万人（日帰り客数141.9万人、宿泊客数33.4万人）で、コロナの影響が出始めていたものの、過去最高数を記録しました。翌年はコロナ禍で94.0万人まで落ち込んでいます。外国人延べ宿泊者数は、東日本大震災後の2012年度から急激に伸び、2017年度には過去最高の21.8万人泊に達し、10年前（2007年度：4.0万人泊）の5.4倍にまで成長しています。



3. ニセコ町観光の課題

【課題1】観光需要の季節変動

ニセコ町は通年型リゾートとして観光入込客数においては季節偏重を克服しつつありますが、宿泊客数においては、未だにオンシーズンとオフシーズンに大きな差があります。そのため、通年での雇用が限定的で、それがサービス水準の向上に取り組む上で障壁となっています。

【課題2】観光経済波及効果の向上

観光客の一人当たりの観光消費額は、国内では比較的高い水準にあります。しかし、観光業を支える材料（食材）やサービス、雇用等は町内だけではまかなえないため、観光消費による経済効果は町外に流出しています。それらの町内調達率を引き上げ、観光経済効果の最大化を図ることが地域経済全体にとって重要となります。

【課題3】二次交通(域内交通)の機能強化

2030年度の北海道新幹線延伸や高速道路延伸により所要時間短縮や利用客の増加が見込まれています。新幹線駅等から町内へのアクセスをはじめ、二次交通の機能強化が喫緊の課題です。

【課題4】国際的な競争力の向上

道内はもとより、国内や海外の観光地との地域間競争が激化する中、他地域と差別化を図り、競争力の向上が課題となっています。国際的には「サステナブルツーリズムに取り組んでいない観光地は10年後に淘汰される」とも言われており、持続可能な観光地への歩みを加速させる必要があります。

【課題5】町民の観光に対するコミットメント(理解と参画)

観光は裾野の広い産業であり、観光客が域内で支払ったお金（観光消費）は直接的・間接的に町民生活や収入に影響を与えます。観光経済波及効果の「見える化」を進め、町民の観光に対する一層の理解を図るとともに、町民が地域の魅力を知り、観光を前向きに捉え、自ら参画する（楽しむ）ことが求められています。

ニセコ町観光のSWOT分析

	強み (Strength)	弱み (Weaknesses)
内部要因	<ul style="list-style-type: none">国内外のスキーヤー・スノーボーダーに知られた「パウダースノー」をはじめ、国際的リゾート地としてのブランド力、認知度の高さ日本百名山「羊蹄山」をのぞむ絶景、アンヌプリ連峰や清流日本一にもなった尻別川など、豊かな自然環境ユニークで多様な観光体験（登山、スキー、ラフティング等のアクティビティや食、温泉など）	<ul style="list-style-type: none">新千歳空港や札幌などから、最短でも車で2時間程度かかる立地ニセコ町への交通アクセス、およびエリア内の域内の移動手段（二次交通、域内交通）が限定的（観光客の8割が自家用車・レンタカーを利用）多様な顧客ニーズを満足させるサービス提供（サービスの種類・品質）の不足
外部要因	今後の機会 (Opportunities)	今後の脅威 (Threats)
	<ul style="list-style-type: none">北海道新幹線の延伸（2030年に新函館～札幌間の延伸により、隣接する倶知安町に新駅開業予定）、および高速道路（後志自動車道）の延伸北海道・札幌でのオリンピック・パラリンピック冬季競技大会の開催（2030年開催を招致中／アルペンスキー会場）宿泊施設や観光施設等の新規開業	<ul style="list-style-type: none">地域間競争の激化（特に冬季は、国内だけでなく、世界的なスキーリゾートが競合となる）新型コロナウイルス感染症の世界的な流行など、観光リスク（疫病、気候危機、自然災害、戦争や不況等）の発生によるインバウンド客の急激な減少過剰な観光開発等による自然環境への負荷増大やオーバーツーリズム（混雑や満足度低下）

4. 将来像

課題を踏まえ、ニセコ町が目指すべき将来像を「町民や観光客から信頼される、持続可能な国際リゾート」とし、3つの目指すべき地域の姿を掲げます。ニセコ町の観光はパウダースノーや清流日本一になった尻別川、豊富な泉質の温泉に代表されるように、この地ならではの地形や気象が生んだ特別な自然に支えられています。それらの自然資源は未来永劫続く保証はありません。私たちには、それらを次世代につなぐ責任があります。「社会経済」「文化」「環境」の持続性を保ちながら、海外・国内の観光客だけでなく、町民からも愛され、信頼される国際リゾートとして、町民の暮らしと調和した観光地を目指します。

将来像

町民や観光客から信頼される、持続可能な国際リゾート

目指すべき地域の姿 1

成熟した通年型の
国際リゾート

- ✓ オフシーズンのない、国内外から支持される地域
- ✓ 環境に配慮したサービスや商品が提供されている地域
- ✓ 魅力的な職場として若者から観光産業が選ばれる地域

目指すべき地域の姿 2

高品質・高付加価値の
国際リゾート

- ✓ 自然・歴史・文化を活かした地域ならではの本物の観光体験（ユニーク&オーセンティックな体験）ができる地域
- ✓ 観光客が安全でストレスを感じずに楽しめる地域（アクセシビリティとユニバーサル）

目指すべき地域の姿 3

町民が誇れる
国際リゾート

- ✓ 観光客・観光事業者・町民が互いを認め、地域の自然や文化の魅力を理解し、環境等に配慮した行動をしている地域
- ✓ 町民が観光の恩恵を実感できる地域

5. 基本戦略と施策の方向性

目指すべき将来像を実現するため、3つの基本戦略とそれに紐づく施策の方向性について、下記に整理しています。施策の方向性に沿って、事業等の立案・実施に取り組んでいきます。

【基本戦略】

基本戦略1

観光産業の安定的な
経済活動と地域貢献

【施策の方向性】

- 1-1 季節変動の平準化と雇用の安定（従業員の所得向上・福利厚生 の充実）
- 1-2 観光事業における域内調達率（材料・雇用等）の向上
- 1-3 観光事業者の地域コミュニティへの貢献（カーボンオフセット等）

基本戦略2

観光客の多様な価値観への
対応と受入環境の整備

- 2-1 観光客への特別な観光体験（宿泊・食・アクティビティ等）の提供
- 2-2 観光客・町民の地域資源（自然・文化・歴史）への理解促進
- 2-3 安全で快適に観光できる受入環境の整備

基本戦略3

観光によって町民生活の
質を高める

- 3-1 観光客の環境配慮型行動の喚起
- 3-2 地域の魅力や観光の取組の情報発信（インナーブランディング含む）
- 3-3 観光関連の起業を増やし、自然・文化の継承に寄与

6. 数値目標(KPI)

本ビジョンでは、2019年度を基準として、10年後の目指すべき観光地の在り方を示す数値目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを進めていきます。閑散期の宿泊者数の底上げ（新規顧客の掘り起こし含む）による消費単価の向上、それに伴う観光消費額の向上を数値目標とします。また、観光による消費が地域経済波及効果を生み、町民が豊かさを実感できること、観光客の満足度を向上させながら、観光に起因する環境への負荷を低減することを数値目標としました。

数値目標	2019年度	2028年度
【指標1】 観光消費額	407.9億円	530.0億円
【指標2】 延べ宿泊者数	47.3万人	80.0万人
【指標3】 観光客満足度	21.3%	30.0%
【指標4】 リピーター率	80.9%	70.0%
【指標5】 宿泊客に起因する環境への負荷量	—	—
	※2022年度モニタリング調査実施予定	※モニタリング調査結果を踏まえ設定
【指標6】 観光で生活が豊かになると思う町民の割合	40.0%	60.0%

7. 推進体制

持続可能な観光地マネジメントを担う中核組織として、ニセコリゾート観光協会を位置づけ、組織の機能強化を図ります。進捗管理（PDCA）については、ニセコ町観光審議会で、定期的に数値目標の評価（見直し）を行います。推進主体は、観光事業者だけでなく、町民をはじめ多様な主体が互いに連携・協働しながら、官民一体となって本ビジョンを推進していきます。

